



よこはま



URL <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



陸上自衛隊東富士演習場から見た富士山



米軍車両の移動



米軍から説明を受ける深山局長



155mm榴弾砲

今年9月、静岡県の陸上自衛隊東富士演習場において、沖縄の米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施（104訓練）が、4年ぶりに実施されました。（4ページ参照）

◇目次◇

- | | |
|--|---|
| <p>1 局長 あいさつ
 2 防衛白書の地方公共団体への説明
 3 在日米軍従業員永年勤続者表彰式
 4 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施
 5 局長感謝状贈呈
 6 在日米陸軍基地管理本部司令官インタビュー</p> | <p>7 第15回防衛問題セミナーの開催
 8 米軍司令官交代式
 9 エア・フェスタ浜松2010
 10 中型掃海艇「えのしま」命名・進水式
 11 こんにちは!吉田防衛事務所です
 12 「自衛隊神奈川地方協力本部」の紹介
 13 関係自治体だより</p> |
|--|---|

編集企画:南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会

発行:南関東防衛局 総務部報道室 TEL 045-211-7129

〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

1. 局長 あいさつ



南関東防衛局長
深山 延暁
(みやま のぶあき)

最近の尖閣諸島を巡る問題や北朝鮮による韓国・延坪島砲撃は、我が国周辺が決して「波静か」ではないことを改めて想起させてくれました。

「治にいて乱を忘れず」私達も緊張感をもって日々の仕事に当たらねばならないとの思いを新たに致しました。

さて、この秋、私達は、防衛白書の説明や防衛問題セミナーの開催などを通じて、我が国の防衛の現状と課題を国民の皆様にも少しでも御理解いただこうと努めてまいりました。

また、静岡県東富士演習場における米海兵隊の「104号線越え」実弾射撃訓練分散実施の支援や永年に亘り勤務された在日米軍従業員の方々への表彰など、日米安保を下支えする業務も行って参りました。

この間、関係者の皆様には大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。来年も宜しくお願いいたします。

読者の皆様、どうぞよいクリスマス、お正月をお迎え下さい。

2. 防衛白書の地方公共団体への説明

防衛白書は、我が国の防衛政策に対する内外の理解を得るために毎年刊行しているもので、平成22年版で36回目になります。

今年の特徴として、ソマリア沖・アデン湾における海賊対処、ハイチ国際平和協力業務など、防衛省・自衛隊の「ありのままの姿」をお伝えし、国民の皆様が国の防衛を考える際の資料となるよう、例年以上に図表や写真を掲載し、また防衛省内外の多くの方々の声をコラムで記述しています。

南関東防衛局では、9月に刊行した今年の防衛白書について、自衛隊地方協力本部などの協力を得、神奈川県、山梨県、静岡県の各知事をはじめとする、地元の地方公共団体の皆様にご説明させていただきました。



静岡県副知事への説明(10/6)



神奈川県知事への説明(10/14)



山梨県知事への説明(10/15)

3. 在日米軍従業員永年勤続者表彰式

10月21日、横須賀市にある横須賀市文化会館大ホールにおいて、横須賀地区の平成22年度在日米軍従業員永年勤続者表彰式が行われました。

在日米軍従業員永年勤続者表彰式は、永年にわたり在日米軍基地に勤務してきた従業員の労をねぎらい、併せて労働意欲及び作業能率の向上を図るため日米の共催により毎年実施されているものです。本年は、10年表彰218名、20年表彰198名、30年表彰98名の合計514名の方々が受賞されました。

式典は、司会者の開式の言葉に始まり、日米両国の国歌吹奏、主催者を代表して深山南関東防衛局長及びラッシュ在日米海軍司令部参謀長のあいさつが行われ、続いて深山局長及びラッシュ参謀長から代表者6名に表彰状と記念品が授与されました。

その後、来賓紹介、吉田雄人横須賀市長の祝辞、祝電披露と続き、最後に勤続30年を迎えられた横須賀海軍施設勤務の従業員が、代表してあいさつを述べられました。

また、表彰式終了後は、文化会館中ホールにおいて懇親会が終始和やかな雰囲気で行われました。



横須賀地区：永年勤続者表彰式



横須賀地区：永年勤続者表彰式

南関東防衛局管内では、このほか、10月13日に富士地区で、また、10月28日に座間地区で永年勤続者表彰式がそれぞれ開催されました。



座間地区：永年勤続者表彰式



富士地区：永年勤続者表彰式

4. 沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施

陸上自衛隊東富士演習場で、沖縄の米海兵隊による沖縄県道104号線越え実弾射撃訓練の分散・実施が、4年ぶりに実施されました。

9月2日に訓練部隊の展開が開始され、人員約390名、車両約90両及び155mm榴弾砲12門の大隊規模による実弾射撃訓練が、同月10日から19日までの10日間、整齊かつ安全に行われ無事故で終了し、同月29日までに撤収が完了しました。

実弾射撃訓練前にはキャンプ富士内で、訓練部隊である第12海兵連隊の司令官等による報道機関に対するブリーフィングが行われ、訓練中の13日には、地元自治体や報道機関に対する訓練公開が行われました。



訓練公開



キャンプ富士にてブリーフィング



訓練公開

当局は、滝ヶ原廠舎内に企画部次長を長とする現地対策本部を設置し、約1月間24時間体制で米海兵隊との連絡調整や演習場周辺等の警備、さらに、調達業務と報道機関等への対応に当たりました。



現地対策本部



現地対策本部

また、実弾射撃訓練の終了後に海兵隊員が、地域へのボランティア活動として御殿場市内の病院において草取りや剪定の作業を実施しました。



ボランティア活動

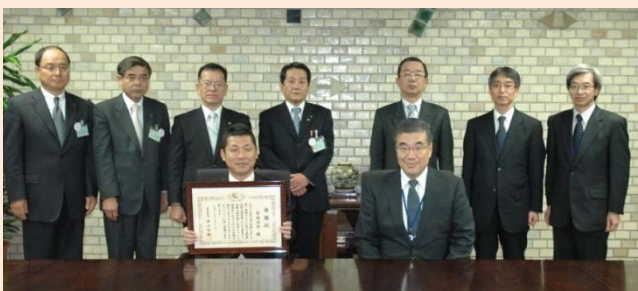
作業後、病院内において闘病生活をしておられる方から、病を通じて得た生きがいや人生の大切さ、そして人は人に支えられて生きていることなどのお話がありました。隊員たちは真剣にその話を聞き、隊員からは隣人への感謝の心を大事にしたい旨の話がありました。



5. 局長感謝状贈呈

11月22日、陸上自衛隊東富士演習場にかかる重要かつ困難な諸問題の処理に積極的に尽力された方々に感謝状を贈呈しました。

また、11月25日、防衛施設の質的向上に貢献された(株)IHI航空宇宙事業本部に感謝状を贈呈しました。



若林洋平氏：御殿場市長



高橋 宏氏：小山町長



鎌野 茂氏
御殿場市御殿場地域振興センター長



鈴木 徹氏
東富士演習場地域農民再建連盟
副委員長



(株)IHI航空宇宙事業本部

6. 在日米陸軍基地管理本部司令官インタビュー

当局管内には、多数の米軍施設がありますが、地元の方々が在日米軍の考えを知る機会がありません。そこで、当局は、米軍がどのような考えを持って日本で運用しているのか、地元の自治体及び住民により理解していただけるよう、米軍司令官とのインタビューを企画しました。本日はご協力いただきありがとうございます。



ヘルトン司令官と
南関東防衛局 大和屋係長

Q 在日米陸軍基地管理本部（キャンプ座間）の任務、重要性について教えてください。

在日米陸軍基地管理本部の任務は、軍人・軍勤務者及びその家族に対し、生活の場を提供することです。軍人・軍勤務者が、日本に滞在中、働き、また、生活を楽しむに当たり、安心して安全な環境を提供します。

基地は、働く場所であるだけでなく、生活の場でもあります。そのため、本国と同じような環境を提供しよう心がけていると同時に、日本に滞在しているという機会を活用し、日本の素晴らしい文化や人に接することができるようにしています。本国と変わらない環境の質を提供することで、在日米陸軍が、素晴らしい生活及び労働の場となるのです。

Q 地元自治体や、地元住民との交流について、今までどのような取り組みを行ってきましたか。

たくさんのことを行っています。座間市長、相模原市長及び市民の皆様と協力し合い、年間を通して様々なイベントを行っています。春には日米親善桜祭りがあります。基地開放日には、アメリカ人も日本人も参加し、共に見学、体験することを通じて、お互いの文化を知る良い機会となっています。8月には盆踊り大会、また、音楽祭り／座間キャンプ・陸上自衛隊体験デーでも基地を開放しています。我々が毎日、日本で業務を遂行するにあたっては、このように、地元市民及び米軍人・軍勤務者が基地において、互いの文化を一緒に体験できている素晴らしい背景があるのです。

同様に、地元市長が企画するイベントにも我々は協力しています。消防相互援助協約も締結しています。また、相模原市が11月20日、21日に開催した、政令指定都市移行記念イベント「さがみはらフェスタ」では、米陸軍相模総合補給廠が会場となりました。



互いに協力して同じ体験をすることを通じ、我々が極東の平和と繁栄のために任務を遂行する中で、地元市民も円滑に日々の活動に取り組むことができます。



ヘルトン司令官と遠藤座間市長



加山相模原市長とヘルトン司令官

Q 陸上自衛隊とはどのような協力関係を築いていますか。

我々は、陸上自衛隊第4施設群と協力関係があります。先のAPECにおいても、来日する世界のリーダー達の安全を確保するに当たり、重要な任務を共にしました。

また、交流イベントでも協力し合っています。陸上自衛隊の新隊員教育後期課程の卒業式に出席しますし、自衛隊の記念行事も毎年一緒に祝います。また、年末の餅つき大会も楽しみにしています。

Q 基地には、多くの日本人従業員もいますが、彼らに対し、どのような印象をお持ちですか。

日本人従業員には非常に感心します。彼らは教養が高く、技術的にも優れています。他の米陸軍の展開場所では見ることの出来ないような能力を、私たちが組織内で持つことを可能にしてくれます。彼らが毎日提供してくれる専門的能力なしでは、我々は業務を成し遂げることは出来ません。エンジニア、大工、電気技師といった技術関係スタッフ、あるいは広報のスタッフ、彼らは全てをこなします。彼らの司令官であることを誇りに思います。



Q 司令官として、いつも心掛けていることについて教えてください。

複数のことを常に意識しています。第1としては、我々が任務を高い水準で達成することです。第2としては、我々のために働く人々が、適切な待遇を受けていることです。先ほども申し上げたように、健康で生産性の高い従業員がいれば、確実に任務を遂行できると信じています。第3として、私は司令官ではありますが、職員全員の能力、職務倫理、向上心なくしては、我々は良い組織として発展していくことは出来ません。私が強調するモットーとして「Good units do everything well. (良い部隊は、あらゆる面で良い仕事をする)」ということがあります。良い部隊は、常に発展し成長し続けようとしています。

Q 日本の言葉やことわざあるいは風習等で好きなものはありますか。

日本には、「3本の矢」の話があり、3者が力を合わせれば、単独よりもずっと強力になると言う意味ですね。同じ目標に向かい、協力し合うことで、単独で活動するより強力に機能できるのです。

Q 日本のみなさんへメッセージをお願いします。

日本での任務を名誉に思います。これまでの海外の任務先は主にヨーロッパでしたので、陸軍から「日本に行ってもらいたい」と言われたときは、どのようなことになるのか想像もつきませんでした。日本人のプロ意識や教養の高さ、親切心に非常に驚き、感動しました。

日米安保50周年を記念する年に、日本において、極東の防衛に携わり、自分の役割を果たしていることを光栄に思います。



(左より、濱崎南関東防衛局報道官、今野座間防衛事務所長ヘルトン司令官、大和屋南関東防衛局係長、ローパー在日米陸軍基地管理本部渉外部長)

7. 第15回防衛問題セミナーの開催

テーマ:ハイチPKOと陸上自衛隊の活動

場 所:甲府商工会議所 (甲府市)

開催日:平成22年11月24日(水)

講 演:(講 師)陸上自衛隊幹部候補生学校教育部長 山本雅治 1等陸佐
陸上自衛隊北富士駐屯地司令 山口耕司 1等陸佐

討論会:(参加者)講師、山梨県及び神奈川県的大学生



講師の山本1佐と山口1佐



主催者挨拶する深山局長



来賓挨拶する小澤医師

当局は、11月24日(水)甲府商工会議所において「ハイチPKOと陸上自衛隊の活動」をテーマに、第15回防衛問題セミナーを開催しました。

今回は、平成22年2月から約2か月間、ハイチ派遣国際援助隊の第1次隊長として活躍された山本雅治1等陸佐(現陸上自衛隊幹部候補生学校教育部長)及び山梨県の災害派遣などに取り組む北富士駐屯地司令の山口耕司1等陸佐を講師に迎え、PKO活動や災害派遣などの陸上自衛隊の活動を説明することにより、防衛省・自衛隊に対し、より一層のご理解とご協力をいただくことを目的に開催し、110名の参加がありました。

また、本年1月、日本赤十字医療チームの一員として現地で医療活動を行ったNGO「ハイチ友の会」代表の山梨市立牧丘病院の小澤幸子医師を来賓としてお招きしました。

今回のセミナーにおいては、講演後、両講師と安全保障問題に関心を持つ大学生との討論会を実施しました。討論会には、山梨県から山梨学院大学及び山梨県立大学、神奈川県から慶應義塾大学、専修大学及び防衛大学校に所属する各校2名の大学生が参加しました。

学生からは「ハイチの人たちと、どのようにコミュニケーションをとったのか。」などの質問があり、講師から「現地の人を雇用したり、母国語を事前に習って声をかけたりした。」など、現地の実体験を踏まえ回答されました。

また、このセミナーを聴講された方からは、「マスコミでは取り上げられてない事柄も聞いて興味深かった。」「討論を通じて防衛問題への理解が進んだ。」などの声が多数寄せられました。



学生の戦車への体験搭乗



講師と学生との討論会



学生の市街地訓練場の見学

これに先立ち、討論会に参加した神奈川県からの大学生は、陸上自衛隊富士学校においてハイチPKOを経験した隊員との懇談、最新の10式戦車見学、90式戦車の体験搭乗、市街地訓練場の見学等を行いました。

8. 米軍司令官交代式

【米海軍第7艦隊司令官の交代式】

米海軍第7艦隊司令官の交代式が9月10日、米海軍横須賀基地に停泊している同艦隊の旗艦ブルーリッジで行われ、ジョン・M・バード中将の後任として、スコット・R・ヴァンバスカーク中将が新司令官に就任しました。

式典には米軍、自衛隊員等日米の関係者及び吉田横須賀市長等が列席し、当局からは深山局長が出席しました。(写真は在日米海軍横須賀基地提供)



写真右は米第7艦隊新司令官

【在日米陸軍司令官の交代式】

在日米陸軍司令官の交代式が10月12日、キャンプ座間で行われ、フランシス・J・ワーシンスキー少将の後任として、マイケル・T・ハリソン少将が新司令官に就任しました。式典には米軍、自衛隊員等日米の関係者及び遠藤座間市長等が列席し、当局からは深山局長が出席しました。

(写真は在日米陸軍基地管理本部提供)



写真右は在日米陸軍新司令官

9. エア・フェスタ浜松2010

エア・フェスタ浜松2010が、10月17日(日)航空自衛隊浜松基地において開催され、約12万人の見学者で賑わいました。

曲技飛行隊の「ブルーインパルス」は編隊を組んで宙返りや横回転飛行、さらに空にスモークでハートや星の形を描いていました。

また、基地内にはブルーインパルスの歴代機首のほか、F15などの戦闘機や、輸送機などが展示されました。

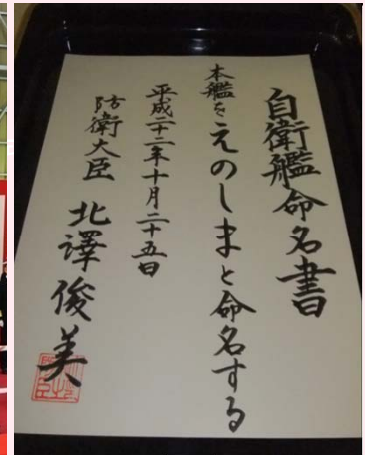


(写真は航空自衛隊浜松基地提供)

10. 中型掃海艇「えのしま」命名・進水式

平成22年10月25日、ユニバーサル造船株式会社京浜事業所において、中型掃海艇（平成20年度契約、570トン型）の命名・進水式が行われました。当日は防衛省の代表として海上自衛隊高嶋横須賀地方総監はじめ南関東防衛局からは深山局長等の多数の防衛省関係者、会社関係者などおよそ350人の人々が見守る中、「えのしま」と命名されました。「えのしま」は現在就役中の「たかしま」の後継となる新型1番艇で、従来の木製の船体からFRP製（繊維強化プラスチック）となったことが特徴です。平成21年5月に起工、平成24年3月引渡し、同年に海上自衛隊に配備される予定です。

（写真はユニバーサル造船㈱提供）



11. こんにちは! 吉田防衛事務所です。

標高800メートル程に所在している当事務所からは、雄大な霊峰富士山の四季折々に現す絶景が、まるでパノラマのように望むことができます。

富士山は霊峰と言われるが故に登山者が非常に多く、特に今シーズンは、山梨県側（吉田口登山道）からは約26万人と過去の最多記録を更新し、静岡県側（御殿場口登山道ほか2登山道）と合わせて、過去2番目に多い約40万人となりました。

当事務所職員のなかには、本年と昨年2年連続して山頂まで登りご来光を拝んできた者もおります。ご来光の神々しさは写真のとおりです。

なお山梨県等は、日本の象徴でもある霊峰富士山（富士五湖を含む）を平成23年に世界文化遺産に登録することを目指しています。



河口湖畔から撮影



三日月形に写っているのは山中湖

12. 「自衛隊神奈川地方協力本部」の紹介

自衛隊神奈川地方協力本部（略して神奈川地本）は横浜市中区山下町に本部を設置し、県下12箇所に自衛官募集等の活動拠点として出先事務所を配置しております。

神奈川県下における防衛省・自衛隊の総合窓口として、自衛官の募集、就職援護、予備自衛官等に関する業務、広報業務等を行っています。

12月1日に新本部長を迎え、部員一丸となって、日々の業務に邁進しています。



【本部長の紹介】

階級：1等海佐

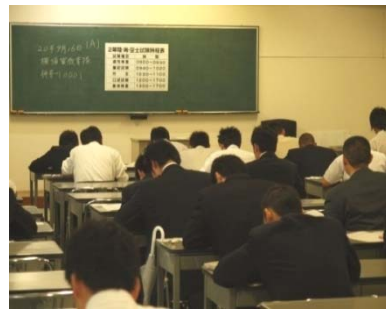
氏名：杉山 義和（すぎやま よしかず）

出身：神奈川県

前配置：第1術科学校（江田島）



募集制度説明会



採用試験



入隊業務



募集広報キャンペーン



援護企業説明会



予備自衛官訓練



体験航海



横浜防災フェア



神奈川県・座間市総合防災訓練



【問い合わせ先】

住所 〒231-0023 横浜市中区山下町253-2

電話 045-662-9476

URL <http://www.mod.go.jp/pco/kanagawa/>

自衛隊神奈川

検索

13. 関係自治体だより

焼津市

焼津市は、平成20年11月に隣接する大井川町と合併し、焼津市として新しくスタートをいたしました。静岡県の中央部に位置し、北は遠く富士山を、東は県都静岡市と駿河湾を臨み、大井川流域の志太平野で、平坦に西で藤枝市と接しています。冬季の降雪も稀な温暖な気候で、面積は70.55km²、北部山間部を除き平坦な区域に約5万3千世帯約14万7千人の市民が生活しています。

焼津市は、水産業を基幹産業としています。中でもカツオは水揚げ日本一となっています。水産加工業は、焼津漁港の後背地や水産加工団地などで地元や輸入・移入の原魚を使って盛んに行われ、練製品、節類、冷凍食品など約7万トンの生産があり県下一の加工品生産高を誇っています。特になると巻きの生産は日本一。カツオ節、なまり節、削り節の製造も国内中堅どころの企業が数多く、常に県内トップを維持しています。

一級河川「大井川」河口左岸近くには、航空自衛隊静浜基地があり第11飛行教育団ほかの部隊が所在しています。航空自衛隊の飛行部隊を有する基地としては最も規模が小さく、飛行運用に必要最小限の部隊施設で構成されています。パイロットの雛鳥たちを訓練する、まさに揺籃の地と言えます。

平成20年度より、騒音の小さい訓練機（T-7型機）に完全移行されましたが、翌年平成21年6月に近隣する牧之原市へ富士山静岡空港が開港し、訓練機の場合周経路が変更されことで、今まで上空を飛行していなかった地域住民から不安の声も聞かれる中、市民感情を少しでも解消しようと、これまで以上に静浜基地との連携を深めているところです。

南関東防衛局には、基地を抱える自治体の課題や市民の要望を踏まえ、安全で安心できる生活環境の整備などきめ細やかな取り組みを期待しています。

(焼津市総務部総務課)



上空から焼津市を望む



焼津港からの富士山